

記載例（先進的産地育成）

（様式1）

番 号
令和8年5月7日

〇〇地域県政総合センター所長

団体の所在地、団体・代表
者名を記載

住所又は所在地 神奈川県〇〇市〇×▽1丁目2番地34号
氏名又は団体の名称 〇〇組合 代表 〇〇〇〇

神奈川県スマート農業推進事業計画書の提出について

このことについて、別添のとおり提出します。

神奈川県スマート農業推進事業計画書

（先進的産地育成事業）

1 補助事業者

| | |
|-----------|----------------------------------|
| ふりがな | 〇〇くみあい だいひょう 〇〇〇〇 |
| 団体名及び代表者名 | 〇〇組合 代表 〇〇〇〇 |
| 所在地 | 〒〇〇〇-〇〇〇〇 神奈川県〇〇市〇×▽1丁目2番地34号 |
| 連絡先 | 電話：(〇〇〇) 〇〇〇-〇〇〇 |
| | 携帯番号：(〇〇〇) 〇〇〇-〇〇〇 |
| | ファクシミリ：(〇〇〇) 〇〇〇-〇〇〇 |
| | E-mail：〇〇〇〇〇@〇〇.jp |

2 産地の概要

| | | 面積(a) | | 主な品目 | |
|----------|-----|-------|-------|------|--|
| | | 露地 | 施設 | | |
| 経営 耕地 | 水田 | 5,000 | | 水稻 | |
| | 普通畑 | | | | |
| | 樹園地 | 果樹 | | | |
| | | 茶園等 | | | |
| | | 計 | | | |
| | 耕地計 | | 5,000 | | |

3 事業内容

(1) 取組内容

管内の水稻50haにおいて、ドローンによる農薬散布や肥料散布、水管理システムや直進アシスト型の田植え機の導入により、産地として農作業の省力化・効率化に取り組み、作業時間の削減を目指す。

(2) 導入機器

| 補助対象機器 | 内容 (機械名、規格等) | 金額 (円) | 対象作目 | 受益面積 (a) |
|---------------|---------------------|------------|------|-------------|
| ドローン | 〇〇社 〇〇〇〇 5台 | 4,000,000 | 水稻 | 5,000 |
| 水管理システム | 〇〇社 〇〇〇〇 (設置費込み) | 800,000 | 〃 | 〃 |
| 田植え機 (直進アシスト) | 〇〇社 〇〇〇〇 3台 | 15,000,000 | 〃 | 〃 |

(3) 補助額

| 補助対象経費 総額 | (単位：円) | | | | |
|--------------|------------|--------------|------------|----------|-----------|
| | うち 県補助金 | うち 市町村補助金 | うち 自己資金 | うち 融資 | うち その他 |
| 19,800,000 | 5,000,000 | 4,900,000 | 9,900,000 | | |

4 目標

(1) 目標値

補助対象経費総額の 1/3 以内の金額 (最大 5,000,000 円まで)
事業実施主体が課税対象者であることが明らかな場合は、消費税額は補助対象外
消費税が補助対象の場合は、補助対象経費に「(含税額)」と記載のこと

| | | 現状 (令和 7 年度) | 目標 (令和 10 年度) | 増減・ 備考 | ポイント |
|---|---------------------------|-----------------|------------------|-----------|------|
| 自らの栽培管理や 集出荷、調整作業 に用いるスマート 機器の導入及び設 置、データ分析等 の場合 | 労働時間 あたり生 産量の増 加 | 8.1t/時間 | 26.5t/時間 | 227%増 | 10 |
| 農業者への貸し出 し事業のために用 いるスマート機器 の導入及び設置に 要する経費の場合 | 導入する 機器の貸 し出し回 数 | 回※1 | 回 | %増 | |
| 受益面積 (導入する機器により 作業を実施する面積※2) の増 加 (作物：) | | ha | ha | ha 増 | |
| 導入する技術の数 | | | 5種類 | | 8 |
| プログラムに記載されている技 術を導入 | | | | | |
| ポイント計 | | | | | 18 |

該当がない場合は記載しない。ポイント欄は別表に基づいて記載する。

※1 計画を作成した年度の見込み値を記載すること。

※2 農業者への貸し出し事業のために用いるスマート機器の導入及び設置に要する経費の場合

導入する技術の効果について、
それぞれ記載

(2) 目標値の算出根拠

・労働時間あたり生産量の増加の根拠

現在、水稲 50ha において、生産量は 270 t である。作業時間は年間、田植作業に 2 時間、農薬散布に 2.5 時間、追肥散布に 5 時間、水管理に 24 時間かかっている。直進アシスト型の田植え機の導入により、作業時間は 18% 削減できる（農研機構 HP より）。また、ドローンによる農薬散布により、作業時間は 10ha あたり 0.3 時間削減（〇〇社カタログより）、ドローンによる肥料散布により、作業時間は 33% 削減できる（農研機構 HP より）。ドローンによるセンシングにより、適期の防除、追肥が可能となり、収量は 6% 増加が見込まれる（〇〇県試験結果より）。自動水管理システムの導入により、作業時間は 80% 削減できる（農研機構 HP より）。

したがって、現状の該当する年間作業時間の合計は 33.5 時間であるが、各機器・技術の導入により作業時間は、田植では 1.64 時間、農薬散布では 1 時間、追肥では 3.35 時間、水管理では 4.8 時間、合計 10.79 時間となる。また、生産量は 286.2t になる。

よって、労働時間あたりの生産量は、現状が 8.1 t / 時間だが、事業実施後は 26.5 t / 時間となり、227% 増加する。

・受益面積（導入する機器により作業を実施する面積※）の増加の根拠

・導入機器の貸し出し回数

・導入する技術の種類

田植え機（直進アシスト型）、ドローン（農薬散布、肥料散布、センシング）、水田の水管理システムの 5 種類。

該当がない場合は記載しない

何種類かも記載

※農業者への貸し出し事業のために用いるスマート機器の導入及び設置に要する経費の場合

5 添付資料

- ・団体の規約及び役員名簿又は構成員名簿
- ・導入する機器等の見積書やカタログ、設置場所の地図等
- ・目標に記載したことが確認できる資料